



春日クリニック

25周年企画

リレーエッセイ⑩ 上野 真理子先生



25年前といえば私は小学1年生。そんな私も今年で医師8年目を迎えました。皆様のエッセイを拝見し、たくさんの方に支えられて今があるとしみじみと感じています。最終回ということで、今回は次の25年に向けての想いを書いてみました。

7人の小さな診療所としてスタートし、現在は90人を超えるスタッフが勤務する春日クリニックグループ。25年という月日が経っても、職員数が増えてもずっとかわらない想いがあります。

「豊かな心で 夢を育み 案ずる心で 医療を創る」

これは朝礼の度に全員で心に刻んでいる使命感です。時代や環境が変わっても、医療の本質は変わりません。病気をしても、歳をとっても、介護が必要になっても、認知症になっても安心して笑顔で生活ができる、そんな地域を支えていきたいという思いが、25年経った今、さらに一つひとつ形になりつつあります。



25年後の2043年は、急速に人口減少が進み、現在のような制度は継続できていないかもしれません。しかし、今のうちからしっかり対策を立て、実行していけば、必ずイキイキ笑顔で暮らしていくことができます。そのためにも「元気なうちから」「若いうちから」をますます大切にしていかなければなりません。私たちは、すでにスタッフ総動員で次の25年に向けた取り組みをスタートさせています。「自分の足で歩き、口からご飯を食べて、最期までお風呂もトイレも自分の力で」というのは決して夢ではありません。

今年、私も「出産」という人生の大きな節目を迎えます。人生の中には、たくさんの転機があります。山あり谷あり、いろいろなことがあります。転びながらも前に進む。できる人ができることを持ち寄り、支えあって生きていく。思いやりの循環があれば、どんなことも乗り越えていけると信じています。しばらく不在の間、ご迷惑をおかけするかもしれませんが、さらにパワーアップして帰ってきますので、しばしお待ちください。



↑ 研修委員会にて、サプライズのお祝いを受ける真理子先生

「世間」や「当たり前」がどんどん変わっていく現代、本当に幸せを感じるのは、どん底の時かけてもらった誰かの何気ない言葉や、向けられた笑顔かもしれません。診療をしていると、身体と心はつながっているのだとつくづく実感します。人の身体は知れば知るほど奥深く、不思議なものです。病気だけ治療しても元気にはなれません。知識や技術を磨くのは大前提ですが、春日クリニックでは「人とのつながり・心のつながり」を大切にしていきます。本当に必要とされる「医療」の形を、しっかりと感じて創りあげ、これまでの恩返しをしていきたい。熱い想いをもって、今後の25年に向けたスタートラインに立っています。

